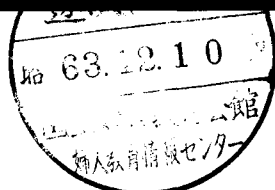


HAND in HAND

はんど・いん・はんど



〔離婚制度への要望と提言〕

■先月号は突然、要望書が送られてきて驚かれた方も多かったかもしれませんが、ごめんなさい。事前にお知らせしておけばよかったのですが、ニコニコ離婚講座100回記念の準備に追われて失念しました。でも、皆さんにもぜひ読んでいただきたくて、急遽91号としたわけです。

■要望と提言は、もっと多いことと思います。どうぞ、気がついたこと、困ったこと、改善してほしいこと、何でもけっこうですから事務局あてにお寄せください。この要望書は政府や関係各機関に送付しましたが、多分実現までにはまだ遠い道のりがあると思います。今、考えているのは、要望書に賛同してくださった方々と「離婚制度を考える会」のようなものを組織して、実現のための条件整備をすることです。

要望書の印刷に間にあいませんでしたが、社会党の土井たか子さんや都議の三井マリ子さんも賛同人になって応援してくれています。100回の講座で終わったわけではなく、これからだと思っています。頑張りましょうね。

■話は変わりますが、11月1日から全国で厚生省が、5年に1度の母子世帯の実態調査をしています。もし、皆さんの家に調査員がまわってきたら、協力できないと拒否したほうがいいように思います。というのは、調査のしかたと調査項目に問題があるのです。まず、調査が対面調査であること。これは郵送の場合と違って、どうしても断れないというプレッシャーを与えがちです。さらに匿名で書いても誰が書いたか特定されてしまいます。そして調査項目の中には、ここまで必要かと思えるほどのものがありプライバシーが守られません。以上のようなことから各地で拒否運動がおきています。皆さんからの情報、お待ちしております。(円より子)

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。新たな旅立ちをした女たちはいま手をとりあい、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。

第92号 200円 禁無断転載

【発行日】1988年12月1日

【発行所】現代家族問題研究所

東京都渋谷区神宮前3-33-2-202

〒150 電話03 (402) 7354, 4385

【分室】 0484-81-0496 児玉

【発行・編集人】 円 より子

【編集スタッフ】 有賀佐知子

【印刷】 ㈱日出島

92

「男たちの離婚事情」

「離婚問題で苦勞しているのは女性だけではありません。男性だって大変な思いをしています。」

一、三〇〇人を数えるハンドの会の大半は女性会員で男性会員はわずかでしたが、最近、男性の入会希望者も増えてきました。その中の一人、東京のAさん(四〇歳)から、こんな書き出しの手紙が事務局に届きました。

確かにそうです。十組の夫婦の離婚には、十人の妻の苦しみと、十人の夫の悩みがあります。

ただ、離婚した多くの女性には明日からの生活をどうするかというさし迫った問題があります。年齢制限やキャリアの面から、大変にむずかしい再就職、男性に比べて低い賃金。そして離婚制度の問題点……etc。

十月に百回を迎えた『ニコニコ離婚講座』や、この『ハンド・イン・ハンド』の紙上では、そういった現実を伝え、どう対処したらよいかをアドバイスしてきました。そしてもうひとつ、離婚の苦しみや不安をどうやってのりきったらよいのか、子供に離婚をどう伝えるかなど、精神的な部分についても生の声を話し、聞くことによって

ずい分、助け合ってきました。

一方、男性はどうでしょうか。冒頭に挙げたAさんの言葉のように、苦勞している離婚問題を、どのようにとらえ、解決しているのでしょうか。

夫にとって妻とは？

男女平等、とはいわれていますけれども、就職の面でも、福祉の面でも、まだまだ男性優位の世の中。そして、女性の社会進出が進んでいるとはいえ、結婚した女性の多くが仕事を辞め家庭に入ってしまった、たとえば仕事を続けていたとしても「男は外、女は内」という性別役割分業の意識が、しっかりと根づいてしまっています。

そんな中で、夫という役割の男性は、妻と呼ばれる女性をどう見ているのでしょうか。

今年四月のニコニコ離婚講座に招いた石井和彦さん(教員)は、その心理をこう話しておられます。

そもそも離婚に至る自分の内面を考えてみると、いろんな問題があるような気がするんです。

僕は昭和二年生まれで、男女共学らしい共学を経験したことがなかったわけです。ですから

私の頭の中にある女性というのは、空想上の生き物でして、ある意味で女性というのは、かわいくて、きれいで、セックスの対象で、とにかく自分が独占して暮らせるのが女性だという、勝手にでっち上げた女性像がありました。(中略)

しかしながら、実際に結婚をしてみてびっくりしたのは、女性自分が自分と同じ人間であるということが、なかなか納得できなかったことなんです、自分の中で。ばかみたいですけど、本当にそうなんです。(中略)

結婚をして見た女性というのは、想像上の女性とは全く違っていて、自分よりもだんだんだんだん重くなってくるし、大きくなくなってくるし、自分では齒がたたないような気がしてくるし、だんだんこつちが萎縮するとか……。自分の言うなり思い通りになるのが女性だと思っていたら、とんでもない。僕なんかより、よっぽどたくましくて、よっぽど図々しくて、よっぽど堂々と要求を持っていて、えーっと思った時には、こつちなんかひしゃげちゃうくらい、

でんとした存在なんですよ。
(中略)

週刊誌その他で空想上作られた女性像というのが、自分の中からはなれないために、現実の女性と充分対応して、二人ですばらしい世界を作りあげていくということが、どんなに大事でどんなにむずかしくて、でもそのことを、どうすればできるのかという知識が、あるいはそういう物の考え方が、男性の側にはほとんどないだと思います。

多かれ少なかれ、男性が潜在的に持っているこういった意識と、女性のシンデレラ・コンプレックスが、現在の大半の夫婦の関係を作っている気がします。

男性が離婚に直面した時

Aさんの場合。二年前に妻と別居、今年七月に裁判離婚。Aさんは手紙の中で、結婚生活をこう書いています。

「結婚生活中は、妻は何でも自分の思い通りにならないとヒステリーをおこし、食器をぶち投げ、私のメガネを取り上げてかくしたり、会社から帰ってくるとドアをチェ

ーンでかけ、私を家に入らせないようにしました。

給料は銀行振込みなので、妻に預金通帳からマネーカード、私のこづかいまで全部管理され、遅く帰宅すれば何をしていただとしたところ聞き、早く帰宅すれば子供の教育にじやまだから早く帰ってくるなど言われ、本当に苦労しました。」

「家は私の親が私と共有名義で買っていた土地に、結婚後家を建てましたが、全部渡して出ていけといやがらせをする毎日。私は妻との夫婦生活に耐えかね、実家に帰りました。それが妻の思うつぽで、私を二度と家に入れませんでした。」

その後、弁護士に相談して出した夫婦円満調停が、申し立てされてないことがわかり、その間に夫婦関係は完全にこわれてしまったそうです。そして、財産分与、小五と小三の男の子の養育費一二〇〇万円を一括払い、妻に家を明け渡してもらうことで離婚が成立。

Aさん言うところの「ブライドの高い妻」との離婚の一番の失敗は、「自分から家を出たこと」と「弁護士に頼ったこと」と言います。離婚までの経緯や結果をなぞるだ

けで、そうなるまでの原因や、Aさんと妻の心の動きを知ることとは、ほとんどできませんが、Aさんにとつての夫婦、結婚、女性とは何なのでしょう。

「家に帰っても誰もいない生活がさみしくてたまらない」と、さかんに口にするAさん。精神的にも経済的にも離婚はよくない、心の通じる女性と出会えたら、再婚をしたい、現在のAさんの心境です。

勤務先の学校の組合作りに奔走していた石井さんの話に戻ります。彼は、突然の妻からの離婚宣言に初めはただ驚くばかり。その時の気持ちや状況をこう話しています。

私はとにかく、これだけ誠実に一生懸命生きていたんだし、楽しんでいるわけだし、したがって離婚なんてなるわけがない。相手だってそういうことをよく理解してくれているんだし、それで結婚したんだし、この我々が離婚するなら、世の中全部が離婚するはずだ、なんて思い込んでいました。だから「離婚したい」と言われた時のショックは大変なものでしたね。信じら

れないような心境でした。もう涙が止まらない。

いざ別居してから、「あ、そうか」と思ったのは、愛情とか愛というのが、実は女房との間の愛というよりは、一定の家庭生活を送ったあとは、例えば子供と妻と私との間でかもし出す愛情生活、共同生活、それが愛なんです。愛といっても、妻と僕の愛というのでなくて、すでに家庭というものが僕の中に不可欠な地盤として存在していて、その中の一部分が女房だったわけです。(中略)

結局、自分は今まで何のために生きていたんだろうと、ぼかすと空洞化したんですね、自分の気持ちの中心が。よく考えてみたら、そこから出かけて、そこへ帰ってくるという、生活の土台、エネルギーの源、地盤であると同時に目的でもあるような家庭というのが、自分にとってどんなに大きな存在だったか



それは他の女性を想ってそこに置き換えても解決しつこない。組合を作って給料を上げて、

その給料は家庭の生活に入るはずだ。首を切られたら全滅だ。

だったらやつぱり、俺がこうやって捨て身になって戦っているのは、そっくり女房や子供のためになるんじゃないかと、自分なりの理屈をちゃんとつけて

して、事実そうだと確信して走り回っていたわけですから、それが否定された時というのは、

じゃあ今まで何のために苦しんできたんだという、ものすごい懷疑におそわれるんですね。

何か生きる張りもなければ、立っているのもいやになるほど力が抜けてしまつて、突然自失という状態でした。(中略)

女房に対して二回暴力をふるっています。それは僕にしてみると、つらくてがまんできなくて、やりきれなくて、どこかに

活路を求めたくて、必死になつて呼びかけても全く拒否される。それがずっと続く中で爆発して、もうだめだ、とやけを起こした

という心理状態の中で、そういう行動に出ていくわけです。

そして石井さんは、離婚をふりかえつて、

もっと徹底的に話し合うということ、とことんやりたかつた

という気持ちで痛烈に残っています。そうした場合には、きつと解決できたはずじゃないかなあ、と思うんですね。

ただ僕の方に、あまりにも作られた女性像と、現実の女性の間のズレが、女性からは想像できないほど大きいんですね。つまり、男女平等といつてみても

実際、毎日毎日の生活の中で、本当にそれがわかるのは至難の業。僕は革命じゃないかと思う

ぐらいですね、男性にとっては。それほど困難です。

離婚はマイナス？

女性には、姓、再就職、住居、子供のことなどで、否応なしに離婚の事実を社会に出さなければなら

ないのです。離婚を恥じることはもちろんないけれども、これらの対応には、やはりかなりのエネルギーがいります。

しかし、ハンドの八七号の樋口恵子さんの話の中にもあったよう

に、サラリーマンという仕事がほとんどを占める世の中では、「タイムカードを押せば、少なくともその日、何かその家庭に異変があった」ということは、誰にも気取られない」のが男性です。

ある会社では、提出された『異動届』の家族欄の異動によつて、離婚したことがわかるそうです。

これはあくまでも、扶養手当や健康保険証の被保険者から妻子をはずすためといった、事務手続きの

必要上。おそらくほとんどの会社がこのような形であり、プライベートな事柄が、何につけても人の目にさらされてしまうことの多い

女性に比べ、不必要な「発表」は少ないのでは？

反面、今の日本企業の中で、離婚した男性は、どう査定されるのでしょうか。

Aさんは、調停などで時間をとられたり、運悪く交通事故で足を骨折してしまつたことも重なり、会社を休みがちになつたため、会社での信用を失つてしまつた、とい

います。

また、同じく会員のTさん(大阪府・五一歳)は、自営業ですが「女房(家庭)の管理ができない人間に、仕事(会社)の管理ができるわけがない、とマイナスイメージが強いでしょうね」と話しています。

離死別母子と父子の集いである「紫陽会」の会報(一九八八年十月号)に、こんな新聞記事が載っていました。男の研究―企業と家庭の間」と題されて、

『(前略) ある企業(従業員数15000人、製造業)のオーナーに、人事考課表の一部を見せてもらった。社員

の一人(係長、四十五歳、勤続二十年)の項目を指しながら、オーナーはいう。

「彼は離婚が原因で父子家庭になつたんですけれどね。とにかく仕事一徹だつた男が急にグチツぽくなつて、ついには『子供が熱を出したから』『父親参観日なので』といつ

てはよく会社を休んだりし始めた。けど、家の用事だからと会社の仕事をサボるなんてとんでもない話

です。当然、考課にひびきました



よ」

家の用事で休むハサボる、という評価は、厳しいなあと思います。が……。離婚した女性の多くは、子供を引き取って仕事をしているわけですが、やはり子供の病気や学校の用事などで休みがちになるために、会社を辞めざるをえなかった人もいます。逆に、事情をすべて話し、好意ある雇主のもとで無理をきいてもらいながらも一生懸命働いている人もいます。

離婚したことが即マイナスになるというよりも、離婚して〜になった、という個々人の態度や仕事への臨み方が判定されるのでしょね。男性向けの週刊誌の中でも、ビジネスマンの離婚事情の特集の中で「離婚のアフターケアによって、企業人としての評価が変わる」と結んでいます。

考えはじめた男たち

離婚に悩み、苦しんだ女性たちは、長い時間をかけながらも、後悔しない離婚を学ぶことの大切さを知り、自分、そして夫、子供を冷静に見つめる力をつけてきました。そういった事実は、同じように離婚や夫婦の問題をかかえる女

性の支えになっていきます。

一方、少しずつではありますが、自らが直面した離婚を、正面から受け止める男性の声が聞こえてきたのはうれしいことです。

今秋、東京新聞の朝刊に連載されていた、円より子の『再婚時代』の読者という五〇歳の男性からは主人公の心情が自分そのものであることに感動した、こういった事例をまとめた書物を是非紹介してもらいたい、という手紙をもらいました。

「もつと本を読んで、調停についての知識を貯えておけばよかった」と、今回の取材に協力してくれたAさんは言っていますし、Tさんは、妻との別居に関する手記を送ってくれました。

しかし、まだまだ多くの男性が、離婚という問題から目をそらしてしまっている気がしてなりません。それをじゃましているものが、男のプライドや体面だとするならば、夫と妻、二人で向かいあつて考えるべき問題に参加してこそ、それは守られるのではないでしょうか。

(文責・有賀佐知子)

Q

一〇年前から別居してまゐります。夫が愛人と同棲しているのです。私には二人の子どもがおり、そのため別れる気はありません。夫は生活費を月三〇万円送ってくれており、子どもにも月二、三回会いにきます。

ところが、最近中二の長女が私に暴力をふるいはじめ、私自身も自律神経失調症に陥っています。別居生活が原因でしょう。なお、私は働いていません。

A

まったくあなたと同じケースの離婚事件を扱ったことがあります。

夫の方は愛人に子どもができたため認知し、堂々と生活しています。それに比べ、正妻の方がクライイ顔してひっそりと暮らして、欲求不満のかたまりのようになっています。その欲求不満の口は子ども。特に長女に、夫の悪口や愛人への非難の言葉をずーっとぶつけてきました。その結果、中学生になった長女は暴走族の男の子と付きあい始めてしまい、妻はオロオロ。夫は「お前の育て方が

悪い」と妻を殴ります。妻もノイローゼになり一時期精神病院に入院したほど。

夫は追いつかせるように離婚調停を起こしてきました。彼女の特効薬は離婚ではないか、と考え説得しました。割合、好条件で離婚できました。調停中、口を酸っぱくして働きに出ることをすすめました。彼女は働けば夫からもらえる生活費が減額されるので働いていなかったのです。

離婚した後、小さなスナックでアルバイトを始めたという彼女に会いました。何とまあイキイキ輝いていたこと。働くことで自信を持ったようです。長女も戻ってきたそうです。

あなたも、まず働いてください。そして今の生活から脱皮しよう。あなたは籍で夫を困らしてやれと思っているけど、自分自身の心身や子どもにも悪影響が表われているは何もならない。自分のための人生を歩んでみて。

弁護士 松尾 道子

☎〇六―三一六―一七六八

弁護士 110 番



第五〇回 神奈川県・Yさん
家族構成

私 (三七歳)

長女 (八歳・小三)

住居

実家へ戻り同居

私が離婚したのは昨年五月、長男、次男は夫が引き取り、私は長女を引き取りそれぞれに暮らしています。結婚生活九年目に訪れた一大転機でした。単身赴任の海外出張が一年の半分という変則的な暮らしから段々にズレていつてしまったのと、現地妻ができてしまったこと等で結局別れてしまいました。別れてからの私は多少、世間へのひけ目はあるものの、涙などは全然でませんでした。一〇〇%自

家計簿内訳 (8月分)

〔収入〕

給与	212,070円
養育費	20,000円
児童扶養手当	33,900円
計	265,970円

〔支出〕

交通費	13,000円
所得税	2,400円
社会保険	24,440円
職場会費	1,800円
財形貯蓄	50,000円
生命保険 (年金型医療保険、子供の)	37,660円
食費+光熱費	53,000円
教育費 (自分の通信教育と子供のピアノなど)	20,000円
教養娯楽費 (子供の外食、雑誌)	10,000円
被服費	15,000円
自分の小づかい	10,000円
母への //	10,000円
子への //	1,000円
計	248,300円
残金	17,670円

分の自由、時間が戻ってきたことに喜びさえ感じました。結婚している時は、内助の功よろしく、事務的なものは一切私の仕事でしたし、主人の為に時を費やすことはとても多かったので、一時、開放的な気分になりましたが、いくら両親と同居で住居費はでないとは言え、いつまでも厄介になつては行かないので、就職活動をしました。が、仲々、独身の時の貿易事務では年齢が高いこともあつてみ

○求人コーナー○

パート・アルバイト

職種―病院内の清掃 (経験不問)

時間―7:30~15:30

8:00~21:00

(フレックスタイム、実働

7時間のシフト制、週3

日以上)

勤務地・時給―

◎700円 (阿佐ヶ谷、新

宿、池尻大橋、下高井戸、

虎ノ門)

◎700円 (溝の口、根岸、

横浜)

◎750円 (大森、清瀬)

待遇―交通費全額支給

昇給あり 賞与年2回

社保完、有休

制服貸与

連絡―

(ハンド会員)

夜8:00~10:00迄



ハンド・イン・ハンドは、みなさんがつくる雑誌です。

みなさんの日常考えていることや、生活の匂いが伝わってくるような、そんなハンド・イン・ハンドでありたいと思います。お便りをどんどんお寄せください

■長野県

Y・I

入会して二ヶ月、毎月送られてくるハンド・イン・ハンドの中でも全国のお仲間のお便りを、ため息と共に、あるいはうなずきながら読ませて頂いております。

九〇号の兵庫のA・Wさん、秋田のM・Tさん、ほんとに大変なことですね。何とか気を強くもってがんばってほしいです。何よりも子供と一緒にいられないことがつらいですね。その意味では、公開家計簿に出ていた大阪のKさんも、こういう事情が存じませんが、大変な感じ。お三人とも自分を支えることで毎日がせいじっぱいなのでしょうね。元氣を出して下さい!!

私の場合は、一年半の別居期間を経て昨年の十月調停成立。初めはどうしても離婚だけはしたくないと思っていましたが、何回も続く調停をこなすだけでも心身共に疲れてしまい、条件的にはこちら

が妥協する形で離婚という事になりました。もつとも、再び共に生きる気持は無く、「子供のために法的な父親がいた方が」という気持だけでしたので、今では離婚して良かったと思っています。(中略)

全国のお仲間の皆さん「健康こそが最初の条件」ということばもありますので、食事管理やスポーツで健康を保ち、良い生き方をし

■北海道

J・K

今年の五月頃より、真剣に夫である人との離婚を考えています。

突然(本当は決して突然ではないの)でしょうが、自分の中に夫との離婚を考えている「もう一人の自分」を知り、戸惑い、不安になり、何よりそんな「もう一人の自分」を否定したくて、毎日ウツウツと考えておりましたが、「もう一人の自分」も今の自分も、同じ「私」であると認めることが出来た時よ

り、少しではありますが、自信を持てるようになりました。

「もう一人の自分」を持ち、「私」の生き方を自らの手でつかもうとし、又、つかんだ女たちが世の中にはいるのだという事実が、何より私のはげみになりました。生きるという事が、大切な事ならば、せめて自分の、私の生き方をしてみたいと思います。

子供の事、親の事、何より世間というものを考える前に、自分と夫と妻という関係で考えてみよう

と努力しています。最初の夫婦の単位で考えはじめなければ何も解決しないし、進むべき道も定まらないし……。それでも毎日揺れ続け、まるでメビウスの輪をはい

の会に入会させていただきたく思っています。

■埼玉県

E・K

私は七月二十三日より、妻(三十八歳)と別居中の男性(四十三歳)です。妻はしゅうとの問題、私との性格の不一致、外にスナツクのチーフという強い支えとなる人がある等の問題で、どうしても自分に忠実に生きたいとの事、又、もう一度人生をやり直したいとの事で、私と子供二人(中一、小六女子)を残して家を出ています。

お互いに憎んでの別居ではなく、私にとつては寝耳に水。私は妻に帰ってきてほしいのですが、彼女にはその気が全くなく、今、子供二人をかかえ悩んでおります。万が一の場合は離婚という事態になるかも知れません。

たまたま「ニコニコすつきり離婚術」を読んで、同じ境遇の人たちといろいろ話をし、考え方をきき、同じ悩みどうしの友人を作り



う対処したらよいか、良きアドバイスを頂ければ幸いと存じます。

■奈良県

T・N

私は五月に女の子を出産したばかりの新米ママです。夫はふだんは優しいところもある人でしたが、父親になっても暴力と酒乱は直らず、とうとう耐え切れずに別居し、現在離婚調停中です。子供が生まれてから家族三人で生活したのは、わずか五日間というかなしいことになってしまいました。

精神的動揺も大きく沈みがちな毎日ですが、子供はより一層明るく元気に育ってほしいと願って育児に励んでいます。赤ちゃんの成長は早いので、この貴重な素晴らしい時間を、暗く過ごしてしまうなんてもったいないし、子供にも申し訳ないですね。

近所のおばさんの視線も少しは気になるけれど、お天気のいい日は、ベビーカーで散歩に出かけて外気浴をさせるのが楽しみです。ゴタゴタのため宮参りもしていませんでしたが、昨日私の両親と共に、実家近くの神社で拝んでいただきました。外出用のベビード

レスを着せて、「かわいいね、お姫様みたい」と喜んでいたので、神主さんは大きな赤ちゃん(七・一kg)を抱っこして、てっきり男の子だと勘違いされたのでしょうか。額に「大」としるされ、「やっぱ男の子らしく大きな声で泣きますなあ!」ですって。

同じような赤ちゃんのいらつしやる方、気楽に何でも相談しあえるお友達になってください。

■東京都

毎月、会報紙が送られて来るのを心待ちにしております。そして読むたびに、いつも励まされ、私も子どものためにがんばらなくては、と思っています。現在、小学校三年生になるひとり息子を引きとって暮らし始めてから、早いもので二年になろうとしています。

最近、子どもに「お父さんと一緒に住みたい」とか「ぼくも兄弟がほしい」などと言われます。そのたびに、息子のことがとてもふびんに思い、私もつらくなります。せめて、兄弟みたいにつきあってくれる友達がいたらなあと思います。そして、一緒にスポーツをし

たり、遊園地などに遊びに行ったりしたいと思っています。できれば、親子ともども、お友達になってくれる方をさがしています。お便りをお待ちしています。

■高知県

T・M

私は夫と別居一ヶ月です。しかし夫は行方不明で音信不通です。書き置きには、子供には月々養育費として十万円位と書いてありますが、離婚届用紙をもらっていたのに、ハンも押していらず出て行きました。いろいろと探してはいるのですが、手がかりがありません。

こういう場合、生死不明だと三年で法的手続ができるそうですが、その間、送金があったりすると、また三年ということになるそうです。

興信所もきいてみましたが、五十万円程かかると言われ、困りしています。夫の両親は、援助をしようという気持ちがないようなので頼ることはできません。しか

し、探さないと話にもならないし。夫の不貞が原因で、家庭不和になりました。今一度、やり直そうという矢先のことでした。相手の女性性は、私も被害者である、関係ないと言っていますが、不信な点もあります。

今の私の気持ちは、まだ離婚はしたくない、子供のために、ということと、私がまだ夫を愛していることもあり、私自身、母子家庭で、子供には父親が必要とも思っています。

しかし、夫の方で離婚を望むなら、その時に混乱しないように、その時の準備のため、自分を見つめ、落着かせるために、同じ苦しみをもった人とのつながりが欲しくて入会させていただきました。

■東京都

E・T

離婚してわずか三ヶ月の間に、仕事を転々としてきました。現在は週二回、ワープロの講習に通うためとりあえずアパートの近くの工場でパート勤務をしています。大学卒の学歴なんて何の役にも立たない、というより、むしろ邪魔みたいなものです。ワープロのほか、

簿記の通信教育も受けています。私は職業経験が短期間なので、やめて資格をとって就職の役に立たないとは思っていますが、子供が小さい事や都心まで遠い等、前途多難です。事務職を希望してはいます。もしどうしても就職が決まらない場合は、方向転換もやむを得ないだろうという気もします。

若い頃の自覚のなさ(職業に対して、結婚に対して)が悔まれます。今はとにかく、遅すぎはしない、まだ大丈夫と、我身をはげます毎日です。でも、時々、先ゆき不安で落ちこみます。今はとにかく、「自信」がほしい。私にはこういう事ができます、と売りこめる能力がほしい。そのためにも、今は努力するしかありません。

会できとりあげてほしいのは、離婚するまで専業主婦でいた人の就職問題です。

■宮城県

仙台へ移り来て、一週間くらいで就職というものにありつきました。仙台のパートバンクで、二件目の紹介で面接にゆき、拘束時間が長いので、社会保険等に手続き

をしてくれることになりました。いわゆる正式な就職への道を選んだのです。

しかし、働いてその会社(店)の内情を知るにつけ、不安な気持ちになるのです。残業手当はないし、店が忙しいので、おけいこことはだめ、有休はあっても、ないも同然、社長の気分次第で退職金でなかったり等々で、なかなか人が居つかないところなのです。

現在は、わがままを言っているかもしれませんが、早々にやめられませんか。しかし、長い将来をかけて働くには不安だし、私の年齢(三十九歳)で、就職を探すのには、一分の余裕も許されないような気持ちなのです。

お子様がいらつしやる方々は、もつと大変と心中を察するのですが、ある程度うまくやっていける会社とめぐりあうまで、皆様方はどのようにがんばったのでしょうか。そのような就職作戦のレポートをとりあげてほしいのです。

■兵庫県

現在、離婚調停中です。下の子供が一歳二ヶ月と小さいので、離

婚後、どのように生活費がまかなえるか思案中です。

大学を出てすぐに結婚し、パート勤めなどはしましたが、ほとんど会社勤めなどした経験がありません。現在、ワープロの勉強中で、それを活かした職種につけたらと思っています。

養育費、慰謝料と、どれだけとれるかわかりませんし、働きに行く入れてもらえるのか、その費用がいくらぐらいかかるのか、公的援助は受けられるのか、それはどれぐらいなのか、正式に離婚した訳ではないので、そういう事をどこへ行けば教えてもらえるのか、まるでわかりません。調停は長びきそうですし、暗中模索の毎日です。(編集部から)

保育園のことも公的援助のこと、福祉事務所へ行って聞いてみましょう。そして、近くのどこでもいいからパート等で働く契約をすれば、保育園に入れます。離婚して収入が低ければ、ほとんど保育料は無料だと思います。児童扶養手当も受けられます。一人で思い悩まず、ハンドの大阪の会に出たりして、知識を得てください。

■事務局便り

■パーティーの成功、心より喜んでいきます。得てして弱者の立場で見られがちな離婚女性の思いを、円さんが堂々と国や社会に向かって要望事項や提言として述べ、かつ、大勢の有識者の賛同、共感を得られ、明日に向かって新たに頑張るための活力になる有意義なパーティーでした。(村上)

■晴天、今秋一番の冷え込みに一層の緊張も増す。皆さん何の事が解る? 十月二十九日、九年七ヶ月の幾歳月を地道に歩んだニコニコ離婚講座の第一〇〇回。講座終了後、円さんが世論に向けて現制度の改善のアピールの会を開催、裏方の私も分ぎざみで進む盛りだくさんのセレモニーの成功を願ってドキドキしっぱなし。勿論素晴らしい行事でした。講座を通して個々のアイデンティティを築く場を多数の女性に与えてくださった円さん、ありがとうございました。(鈴木)

■要望書の反響が大きく、各地から送付してほしいとの連絡が届いています。郵送料込みの二七〇円(切手)でお分けしています。(円)



第一〇一回ニコニコ離婚講座

十二月はお休み。一月からは会場が変わります。

第一〇一回のニコニコ離婚講座は一九八九年一月二八日(土)午後一時半より、JR飯田橋駅隣接のセントラルプラザ六階視聴覚室にて行ないます。電話予約要。
☎〇三ー四〇二ー七三五四

会合のお知らせ

★東京の会合

毎月第三土曜日、千駄ヶ谷社会教育館(JR千駄ヶ谷駅下車徒歩三分)で開いています。今月は十二月三日(土)。社事大の子供のための離婚講座にご参加下さい(下記参照)。

★横浜の会合

☆

★大阪のニコニコ離婚講座

十二月六日(火)、一月二八日(土) いずれも午後一時半～三時半。大阪府情報文化センター(住友中之島ビル五F)にて。

に連絡してください。

●母子家庭実態調査の拒否を!

五年毎の母子家庭実態調査が既に始まってしまいましたが、対面調査であるため、プライバシーが守られない恐れがあります。表紙にも書きましたが、断固拒否しましょう。また、既に調査が来た場合はぜひ事務局にご一報ください。詳細について次号に載せます。 円より子

☆子供のための離婚講座

十二月三日(土) 一時半～四時。日本社会事業大学〇一教室。参加費大人千円、子供無料。司会は円より子でパネラーは学生、社会人となった子供たち。参加者全員がグループに分れての話しあいもあります。問いあわせは〇三ー四〇二ー七三五四へ。

●忘年会にきてネ

十二月七日(水)午後六時半～八時半。下北沢駅横やさい陣(四六六)三三三にて。会費二、五〇〇円。前日まで事務局へ申し込みを。

☆離婚一〇番

〇三ー四〇二ー七三五四
〇三ー四〇二ー四三八五
電話相談は第一、第三土曜日が午後一時～四時。第二、第四、第五土曜日が午後七時～十時。

購読料について

現在つぎの三通りの方法をとらせていただいています。

- ① 一年間三〇〇〇円(送料共)
- ② 二年間まとめて前払いしてくださいる方には、二年分、六〇〇〇円のところを五〇〇〇円に。
- ③ 出せ払いもしくは免除

どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出てください。それぞれ出費が多く大変でしょうが、期限切れの通知の入った方、またはこの折にという方、いずれもご都合のよい方法でどうぞ。

(振込先) 各地の郵便局にて振込用紙は無料でもらえます。東京一四一二〇五四二
ハンド・イン・ハンドの会